

- 問1 5世紀、倭の五王が中国の南朝である「宋」へたびたび使者を送った目的として、当時の東アジア情勢を踏まえた説明として最も適切なものはどれか。 (2016年 岐阜県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. 朝鮮半島における軍事的な指揮権や外交的な立場を、中国の皇帝に公認してもらうため。 | 2. 遣隋使の派遣に先立ち、中国の進んだ律令制度や仏教を日本に導入する許可を得るため。 | 3. 福岡県の志賀島で発見された「漢委奴国王」の金印を、宋の皇帝に返還するため。 | 4. 邪馬台国内での争いを鎮めるために、中国の強力な軍隊を日本国内へ招き入れるため。 |
|---|---|--|--|
- 問2 朝鮮半島から稲作が伝わった弥生時代の生活様式について述べた文章のうち、収穫した稲の保管方法に関する説明として正しいものはどれですか。 (2023年 茨城県公立入試 類似)
- | | | | |
|------------------------------|-------------------------------|-------------------------------------|--------------------------------|
| 1. 地面を掘り下げて床を作った竪穴住居の中に保管した。 | 2. 獲った獲物を燻製にするために、洞窟の奥深くに納めた。 | 3. 湿気を防ぎネズミなどの害を避けるために作られた高床倉庫に納めた。 | 4. 大きな石を組み合わせて作った石舞台古墳の中に保管した。 |
|------------------------------|-------------------------------|-------------------------------------|--------------------------------|
- 問3 古代の東アジアにおいて、倭（日本）などの周辺諸国の首長や国王が、中国の皇帝に使者を送り、貢物を捧げた外交形式を何と呼びますか。この形式において、使者は中国の皇帝からその地域の支配権を認められ、称号や金印を授かることで、自らの権威を高めようとしてしました。 (2024年 宮城県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|-------|-------|-------|
| 1. 民間貿易 | 2. 朝貢 | 3. 冊封 | 4. 通商 |
|---------|-------|-------|-------|
- 問4 大陸から稲作の技術が伝わったことで、人々の生活や集落の様子は大きく変化しました。この時期の集落において、収穫した食料を管理・保存するために設けられた特徴的な施設として適切な名称を選びなさい。 (2021年 岡山県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|----------|---------|---------|
| 1. 高床倉庫 | 2. 前方後円墳 | 3. 環濠集落 | 4. 竪穴住居 |
|---------|----------|---------|---------|
- 問5 紀元前後の日本（倭）が100余りの小国に分かれていた時代、現在の福岡県付近にあった「奴国」の王が使者を派遣し、皇帝から「漢委奴国王」と刻まれた金印を授けられたとされる中国の王朝を選びなさい。 (2016年 大阪府公立入試 類似)
- | | | | |
|------|------|------|------|
| 1. 唐 | 2. 漢 | 3. 宋 | 4. 元 |
|------|------|------|------|
- 問6 弥生時代から江戸時代までの外交上の主なできごとを整理した記録において、3世紀に邪馬台国の女王である卑弥呼が中国の魏に使いを送り、皇帝から「親魏倭王」の称号を授かった目的や背景を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2017年 富山県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 中国の強力な王朝との外交関係を築き、その権威を背景に国内の統治を安定させ、周辺諸国との関係を有利に進めるため。 | 2. 先進的な仏教文化や律令制度を日本に導入し、天皇を中心とした中央集権国家の基盤を早急に固めるため。 | 3. 「漢委奴国王」と刻まれた金印を授かることで、北九州の奴国を中心とした小国の連合体を統一し、女王の地位を証明するため。 | 4. 朝鮮半島南部での鉄資源の確保を目的として、中国の王朝と軍事同盟を結び、高句麗や百済に対抗するため。 |
|--|---|---|--|
- 問7 弥生時代の集落において、収穫した稲を保存するために造られた「高床倉庫」について、床を高く設計した主な目的として最も適切な説明を選びなさい。 (2021年 岡山県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. 夏の暑さをしのぐために、地面に深い穴を掘って室内の温度を一定に保つため。 | 2. 洪水による浸水を防ぐために、海岸沿いの低湿地に集落の全ての建物を配置する必要があったため。 | 3. 床下の通気性を高めて湿気を防ぐとともに、ネズミなどの害虫が侵入するのを防ぐため。 | 4. 敵からの攻撃をいち早く発見するために、建物全体を物見櫓（ものみやぐら）として活用するため。 |
|---|--|---|--|
- 問8 弥生時代に大陸から稲作とともに伝えられた金属器のうち、強度が非常に高く、主に武器や工具、木製農具の刃先などの実用的な道具として用いられたものはどれですか。 (2023年 大阪府公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|--------|-------|---------|
| 1. 磨製石器 | 2. 青銅器 | 3. 鉄器 | 4. 打製石器 |
|---------|--------|-------|---------|
- 問9 弥生時代の社会の変化について述べた文として、当時の集落のあり方や道具の特徴を正しく説明しているものはどれですか。 (2024年 沖縄県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 集落の周りに堀や柵を巡らせ、薄くて硬い土器や鉄器・青銅器などの金属器を使用した。 | 2. 仏教の伝来とともに巨大な前方後円墳が造られ、集落の形が大きく変化した。 | 3. 竪穴住居が並ぶ大規模な集落が形成されたが、外敵を防ぐための堀などは作られなかった。 | 4. 縄目の文様がある厚手で黒褐色の土器を使用し、主に狩りや採集を行って生活した。 |
|---|--|--|---|
- 問10 稲作の技術が広まったことで、土地や水をめぐる争いが起き、周辺のムラを従えて「クニ」をつくる者が現れた弥生時代の社会において、青銅器はどのような役割を担ったと考えられますか。 (2019年 徳島県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---------------------------------------|--|---|
| 1. 大規模な水田開発を行う際、土を掘り起こすための主要な農具として普及した | 2. 大陸との交易において、日本の特産品として輸出される主要な品目となった | 3. 呪術的な力を持つと信じられ、女性の姿をかたどった土偶とともに魔除けとして埋められた | 4. 王や指導者がその権威を示すため、あるいは祭祀を行うための象徴として用いられた |
|--|---------------------------------------|--|---|
- 問11 弥生時代に大陸から稲作の技術とともに伝わった金属器について、武器や工具として実用的に使われた鉄器に対し、主に豊作を祈る祭りなどの祭祀（儀式）に用いられたものを総称して何といいますか。 (2026年 滋賀県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|--------|-------|-------|
| 1. 磨製石器 | 2. 青銅器 | 3. 鉄器 | 4. 埴輪 |
|---------|--------|-------|-------|
- 問12 古代日本の生活文化について述べた次の文のうち、衣料に関する記述として正しいものを選びなさい。 (2026年 栃木県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 古代の日本列島では乾燥した気候を活かした羊の飼育が盛んで、羊毛が主な原料だった。 | 2. 弥生時代には稲作とともに綿の栽培も伝わり、民衆の服の多くは綿製であった。 | 3. 当時の技術では植物繊維を利用することができず、衣服のすべてが動物の皮で作られていた。 | 4. 古墳時代の有力者は、麻のほかにも絹を用いた衣服を身につけることもあった。 |
|---|---|---|---|
- 問13 弥生時代に作られた青銅器のうち、釣鐘のような形をしており、表面に流水などの幾何学模様が施されている祭祀の道具を何というか。 (2026年 新潟県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|--------|-------|-------|
| 1. 銅剣 | 2. 石包丁 | 3. 銅鏡 | 4. 銅鐸 |
|-------|--------|-------|-------|
- 問14 弥生時代の社会における銅鐸の特徴や役割について述べた文として、正しいものを選びなさい。 (2023年 三重県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|---|
| 1. 大陸との交易を円滑に進めるために、重さに応じた価値を持つ貨幣として使われた | 2. 次第に大型化し、表面には当時の生活や自然を反映した装飾が施されるようになった | 3. 鉄器よりも硬度が高いという性質を活かし、木を伐採するための工具として普及した | 4. 各個人の家の中に置かれ、日常的に家族の健康を祈るための仏具として使われた |
|--|---|---|---|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 朝鮮半島における軍事的な指揮権や外交的な立場を、中国の皇帝に公認してもらうため。	5世紀の倭（ヤマト政権）は、国内の統一を進めるとともに、鉄資源の確保などを求めて朝鮮半島への進出を強めていました。倭の五王は、朝鮮半島における百濟や加耶（加羅）に対する軍事的な影響力や外交的な地位を中国の皇帝に認めてもらう（官爵を得る）ことで、他国や国内の諸勢力に対して自らの正当性を主張しようとしていました。
問2	答え 3 湿気を防ぎネズミなどの害を避けるために作られた高床倉庫に納めた。	稲作が普及すると、収穫した食料を長期保存する必要が生じました。地面から床を高く浮かせることで通気性を良くし、湿気による腐敗を防ぐとともに、ネズミなどの小動物の侵入を防ぐ「ねずみ返し」などの工夫がなされました。
問3	答え 2 朝貢	中国を中心とした国際秩序の中で、周辺諸国の君主が中国の皇帝に対して臣下の礼をとり、貢物を捧げる行為を指します。これにより、周辺諸国の君主は中国皇帝から国内の支配権を正当化する称号（官職や王号）を得ることができました。設問にある「称号や金印を授かること」は、この外交関係に伴う重要な政治的プロセスです。
問4	答え 1 高床倉庫	弥生時代に稲作が普及すると、人々は安定して食料を得られるようになり、定住生活が進みました。これに伴い、余剰となった収穫物を保存する専用の施設が必要となり、高床倉庫が作られるようになりました。住居として使われた地面を掘り下げた構造の「竪穴住居」とは、その役割と構造が明確に区別されています。
問5	答え 2 漢	紀元前1世紀ごろ、倭（日本）は100余りの国に分かれていました。1世紀半ば（紀元57年）には、その中の一つである奴国の王が中国の王朝である漢（後漢）に使者を送り、皇帝（光武帝）から金印を授かりました。この事実は中国の歴史書である『後漢書』東夷伝に記録されています。
問6	答え 1 中国の強力な王朝との外交関係を築き、その権威を背景に国内の統治を安定させ、周辺諸国との関係を有利に進めるため。	当時の倭（日本）では多くの小国が争っていましたが、卑弥呼は邪馬台国を中心とする連合体をまとめるため、中国の「魏」という大国の威光を利用しました。中国の皇帝から正式に「王」としての称号を授かることは、国内における支配の正当性を高める強力な武器となりました。1世紀の「漢委奴国王」の金印（後漢へ派遣）や、後の時代の仏教伝来、朝鮮半島への出兵とは時代や背景が異なる点を見極める必要があります。
問7	答え 3 床下の通気性を高めて湿気を防ぐとともに、ネズミなどの害虫が侵入するのを防ぐため。	稲作が本格化した弥生時代には、収穫物を長期間保存する技術が不可欠となりました。高床倉庫は、床を高くすることで風通しを良くして湿気による稲の腐敗を防ぎ、さらに柱の上の部分に「ねずみ返し」と呼ばれる板を取り付けることで、食料を食い荒らすネズミの侵入を防ぐ工夫が施されていました。
問8	答え 3 鉄器	弥生時代には大陸から鉄器と青銅器という二種類の金属器が同時に伝わりました。青銅器が祭祀（祭り）や儀式のための道具として用いられたのに対し、鉄器は硬度が高く鋭い刃物を作ることができたため、戦いのための武器や、木材を加工する工具、開墾効率を高めるための農具の刃先として幅広く活用されました。
問9	答え 1 集落の周りに堀や柵を巡らせ、薄くて硬い土器や鉄器・青銅器などの金属器を使用した。	弥生時代は、稲作の普及に伴い金属器（鉄器・青銅器）や、縄文土器に比べて薄くて硬い弥生土器が使われ始めました。社会構造の変化により、争いから身を守るための環濠集落が築かれたのがこの時期の大きな特徴です。縄目の文様がある土器や、防御施設のない大規模集落（三内丸山遺跡など）は主に縄文時代の特徴です。
問10	答え 4 王や指導者がその権威を示すため、あるいは祭祀を行うための象徴として用いられた	稲作の伝来により生産力が高まると、土地や水をめぐる対立から社会に階級が生じ、各地に「クニ」が成立しました。地域の指導者は、集団の結束を固めるための祭祀（まつり）を主導し、その際に大陸由来の希少な技術で作られた青銅器を権威の象徴として利用しました。土偶は縄文時代の特徴的な遺物であり、青銅器は農具としては脆いため実用的ではありませんでした。
問11	答え 2 青銅器	弥生時代には、大陸から稲作とともに金属器の文化が伝来しました。硬くて鋭い鉄器が武器や農具として実生活で役立てられたのに対し、美しく光る青銅器は神聖なものとして扱われ、村の祭りや儀式で使われる宝物としての役割を担いました。
問12	答え 4 古墳時代の有力者は、麻のほかに絹を用いた衣服を身につけることもあった。	弥生時代や古墳時代には、すでに麻や絹を織る技術が存在していました。特に身分の高い人物は、貴重な絹を用いた衣服を着用していたことが遺跡の出土品などから確認されています。綿（木綿）や羊毛（ウール）が日本の衣料の主流となるのは、中世以降や近代になってからのことです。
問13	答え 4 銅鐸	弥生時代には大陸から金属器の技術が伝わり、青銅器と鉄器がほぼ同時に使われ始めました。青銅器のうち、釣鐘の形をした銅鐸は、主に近畿地方を中心に分布しており、豊作を祈るための祭りの道具として用いられたと考えられています。
問14	答え 2 次第に大型化し、表面には当時の生活や自然を反映した装飾が施されるようになった	青銅器は、鉄器に比べると柔らかいという性質があるため、実用的な工具や武器よりも、権威を示す宝物や祭りの道具として発展しました。銅鐸は時代が下るにつれて、音を鳴らすためのものから「見るためのもの」へと大型化し、表面には狩猟や農耕の様子など、当時の社会を映し出す絵画的な装飾が見られるようになります。